



新規委員  
募集中!

16歳以上の町民、または町民1人以上の推薦がある町外の方、お気軽にご参加ください!  
〈お問合せ・お申込み〉小布施まちづくり委員会事務局 (小布施町企画財政課内)  
TEL:026-214-9102 FAX:026-247-3113 E-mail:kouryuu@town.obuse.nagano.jp

# 部会だより

安全を考える部会

## 広域防災連携の時代を迎えて 住民参加型防災活動の推進

安全を考える部会では、昨年10月に長野市役所で開催された、長野県、長野市、信州大学共催「災害アーカイブ展」令和元年度東日本台風から3年」において、部会の活動記録をまとめたA1サイズのパネル2枚(左図)を展示しました。また、同展に出展した千曲川流域9地区の住民代表等との交流会に参加し、活動経緯や課題の発表と意見交換を行いました。

これまで、青パトの効果的な活用に関する提言や防災マニュアル、防災標語の作成、防災グッズ・備蓄品など身近な課題の検討を行ってきましましたが、町外の団体との広域的な取り組みは初めてのことで、この交流会で幾つかの団体と接点を持つことができ、歴史的水害史料活用研究会では今年6月に北斎ホールで研究成果を発表する準備を進めているとのことで、部会との共催も検討しています。また、信州大学教育学部廣内研究室では、被災後住宅を再建された飯田のお宅のインタビューなど、災害アーカイブとして後世に伝える取り組みを行っており、部会でも昨年11月に内山琴絵特任助教を講師に住民防災講座を開催するなど今後も連携していきます。

副部長 吉田健一



「災害アーカイブ展」でのご縁から、町外団体との連携活動もさまざまに展開しそうです。

部会では他にも、長野県が開発した「信州防災アプリ」の使い方について県の担当者を招いての学習会や、小布施町公式「LINE」の防災情報

共育を考える部会

## 「エージェンシー」ってなあに?

部長 元田和行

共育を考える部会では現在、小布施学園コミュニティスクールと連携し、子どもたちの育ちに「エージェンシー」と「生活リズム」の2つの柱を据え、町全体で子どもや学校を応援していけるよう取り組んでいます。

「エージェンシー」は、急速に変化する予測困難な社会において持続可能な社会の創り手となる子どもたちに身につけてほしい力の一つです。この力はOECD(経済協力開発機構)で活発に検討されたもので「変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもつ



小布施学園コミュニティスクールも応援している「挨拶の日」の登校風景。

「自分史&未来日記」の活用を  
前回の『小布施まちづくりボイス』でもご紹介しましたように、福祉を考える部会では小布施版「自分史&未来日記」を多くの方々に利用していただき、明日からの生活を少しでも豊かにするお手伝いをさせていただきたいと考えています。今後、書き方勉強会など、書く場所や時間を設けて、書きやすい環境の提供ができればとも考えています。

報(避難所への道案内地図の使い方等)の学習会を行いました。昨年12月の町報に防災の新たな避難方法の紹介記事が掲載され、新調されたハザードマップも全戸に配布されたところです。

当部会では今後、町とも連携しながら、松代町で作成された災害スゴロクや町の災害用備蓄品・災害食などについて調査及び利用方法を検討し、町民の皆さんの防災意識向上の一助となるよう取り組んでいきます。

住民参加型防災活動の推進に興味のある方の加入をお待ちしています。

交流を考える部会

## 手作りとおしゃべりを楽しむひととき ——3年ぶり・11回目の多文化交流会

中村桂子

2月5日、町内在住外国籍住民ネットワークメンバーが集まり、水餃子とタイのガパオ料理を作りました。参加者は中国、タイ、ミャンマー、日本国籍の計16名でした。水餃子は皮作りから。小麦粉をこねて丸めた生地を棒で薄くのぼし、具をのせて包みます。ジャンボ餃子から小さくてかわいい餃子まで、不揃いながら約300個が完

成。みんなでおしゃべりをしながら手作り感を楽しみました。ガパオ料理は、好みによりスパイスの味と辛いもの2種類を作り、ひき肉と赤と黄色のパプリカを使い、最後に目玉焼きをのせて彩りよく仕上げました。作った料理は各自で持ち帰り、後日参加者からは「おいしかった」「楽しかった」との感想が。コロナ



手作りを通じて各国の食文化にふれながらおしゃべりを楽しむ多文化交流会は毎回好評をいただいています。

環境を考える部会

## 「ごみ資源」さらなる理解に向けて 『夢みる小学校』上映会&トークイベント

副部長 栗原宏幸



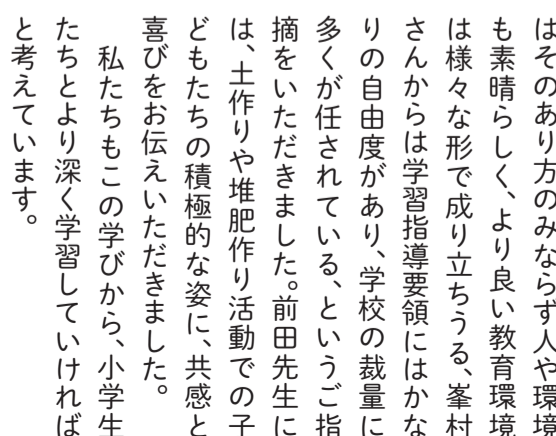
小学校4年生と行う生ごみリサイクル土づくり&丸なすの栽培は、約10年にわたり継続中です。

環境を考える部会の重要な活動の一つは、小学校4年生との「菌ちゃん(微生物)土づくり」と小布施丸なす栽培です。子どもたちが持参した野菜くずを「菌ちゃん」たっぷりの「ぼかし」を混ぜ、生ごみの変化を観察しながら小布施丸なすを育てます。普段はあまり目に見えない微生物の働きを、臭い、発酵熱、菌糸、作物の生長、収穫など五感で体験してもらい、「ごみ」が実は資源でもあることへの理解を深めてもらっています。

数年前からの新型コロナウイルス感染症の蔓延により、集会やサークルなどの人との交流が難しくなり、マスク越しで顔の表情も窺い知れないコミュニケーションが普通となっていました。こんな時だからこそ、過去の歩み振り返り、未来への夢を書き記しませんか。

その中で子どもたちにどうやって理解してもらうかは常に私たちが考えています。秋山さんからは「学園」はそのあり方のみならず人や環境も素晴らしく、より良い教育環境は様々な形で成り立ちうる、峯村さんからは学習指導要領にはかなりの自由度があり、学校の裁量に多くが任されている、というご指摘をいただきました。前田先生には、土作りや堆肥作り活動での子どもたちの積極的な姿に、共感と喜びをお伝えいただきました。私たちもこの学びから、小学生たちとより深く学習していければと考えています。

上映後、子どもの村学園に勤務されていた秋山将平さん、栗ガ丘小学校校長の前田博展先生、スクールコーディネーターの峯村均さんによるトークイベントも開催されました。秋山さんからは「学園」はそのあり方のみならず人や環境も素晴らしく、より良い教育環境は様々な形で成り立ちうる、峯村さんからは学習指導要領にはかなりの自由度があり、学校の裁量に多くが任されている、というご指摘をいただきました。前田先生には、土作りや堆肥作り活動での子どもたちの積極的な姿に、共感と喜びをお伝えいただきました。私たちもこの学びから、小学生たちとより深く学習していければと考えています。



会場からも発言が続き(写真下)、充実した対話の場となった『夢みる小学校』上映会&トークイベント(2022年11月19日、北斎ホール)。